

2018年度定期総会 第38回研究大会 プログラム

開催期日・会場 2018年5月19日(土)：ホテルロイトン札幌

2018年5月20日(日)：酪農学園大学

	午 前	昼休み	午 後
18日 (金)			18:00～19:30 ■2017年度第5回理事会 〔ホテルロイトン札幌〕
19日 (土) 総会 ・ 研究 大会	10:00 受付開始 〔会場:ホテルロイトン札幌〕 10:30～12:00 定期総会 〔会場:ホテルロイトン札幌〕	12:20～13:30 ◆打ち合わせ 特別講演・シンポジウム 関係者 ■2018年度 第1回編集委員会 ◆分科会関係者打ち合わせ	13:30～17:00 研究大会 I:特別講演 II:シンポジウム 〔会場:ホテルロイトン札幌〕 17:30～19:30 情報交換会 〔会場:札幌ガーデンパレス〕
20日 (日) 研究 大会 ・ 第2 日	9:00 受付開始 〔会場:酪農学園大学〕 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">分科会</div> 9:30～12:30【午前の部】 会場:酪農学園大学 第1分科会 第2分科会 第3分科会 第4分科会 第5分科会 第6分科会	12:30～13:30 ■2018年度第1回理事会 ■2018年度第1回 研究委員会 ◆分科会関係者打ち合わせ	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">分科会</div> 13:30～16:30【午後の部】 会場:酪農学園大学 第7分科会 第8分科会 第9分科会 第10分科会

(後援)北海道教育委員会

一般社団法人全国私立大学教職課程協会

会場案内

◆5月18日(金) 理事会 会場 ホテルロイトン札幌

◆5月19日(土) 第1日 定期総会・研究大会 特別講演とシンポジウム

会場 **ホテルロイトン札幌** ロイトンホール(3F)

〒060-0001 北海道札幌市中央区北1条西11丁目

電話：011-271-2711

情報交換会

会場 **札幌ガーデンパレス「鳳凰」**

〒060-0001 北海道札幌市中央区北1条西6丁目

電話：011-261-5211

◆5月20日(日) 第2日 研究大会分科会

会場 **酪農学園大学** C1号館

〒069-8501 北海道江別市文京台緑町582番地

電話：011-388-4125

アクセスマップは、14-17頁をご覧ください。

参加申込要領

1. 定期総会への出欠…同封「はがき」のご投函

(1) 同封の「はがき」に定期総会の出欠をご記入のうえ 5月7日(月)までにご投函ください。

※お手数ですが62円切手を貼付願います。

(宛先…一般社団法人全国私立大学教職課程協会事務局)

(2) 議決権行使者氏名…定期総会にご出席される方のご氏名(複数出席される場合は代表者名)をご記入ください。

2. 委任状

定期総会ご欠席の会員大学は、同封の「はがき」の委任状部分に必要な事項をご記入いただき、5月7日(月)までにご投函ください。

※定期総会成立のために委任状も必要となりますので、定期総会にご欠席の会員大学は、委任状(1大学1通)をご提出いただきますようご協力をお願いいたします。

※委任状の中の「代表者氏名」は学長名ではなく、全私教協からの書類の受領、全私教協へ書類等を提出される代表者名で結構です。

3. 研究大会／情報交換会の参加申込方法

全私教協のWEBサイト(<http://www.zenshikyo.org/>)トップページの「一般社団法人全国私立大学教職課程協会 2018年度定期総会・第38回研究大会」「お申し込み・ご案内はこちら」の「お申し込みフォーム」から、各事項をご記入の上送信していただきます。

5月7日(月)までにお申し込みください(期限厳守)。

※配付資料は事前申込者数で準備しますので、期限内にお申し込みいただきますようご協力をお願いします。

4. 参加費

(1) 研究大会…1名 7,000円 情報交換会…1名 5,000円

(2) 参加申込を確認後、折り返しメールで参加費の振込方法をご案内します。

※参加申込をされてから2日以内に参加費振込方法のご案内のメールが届かない場合は、4頁の問合せ先までお問い合わせください。

※振込の際、受付確認メールに記載された受付番号を大学名・申込人名の前に必ず記してください。

(3) 振込手数料のご負担をお願いいたします。

(4) ご入金後の返金は理由の如何を問わずいたしません。

5. 定期総会出欠(議決権行使者届兼委任状)「はがき」投函期限

2018年5月7日(月)

研究会・情報交換会参加申込締切

2018年5月7日(月)

【開催事務局からお願い】

近年、申込期限後に多数の参加申込があり、運営校の準備に過大なご負担をおかけしています。
参加申込の期限厳守に重ねて皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

6. お問い合わせ先

○定期総会出欠・委任状の記載等に関するお問い合わせ先

一般社団法人全国私立大学教職課程協会事務局

東京薬科大学生命科学部内

電話&FAX：042-676-5634 E-mail:info@zenshikyo.org

(電話は研究室直通です。電子メールのご利用にご協力ください。)

○研究会、情報交換会への参加申込、参加費振込に関するお問い合わせ先

酪農学園大学教育センター教務1課

担当 浅井

電話:011-388-4125 FAX:011-388-4125 E-mail:t-asai@rakuno.ac.jp

(できる限り電子メールにてお問い合わせください。平日【月～金】のみ対応となりますので
ご了承ください。)

7. 両日の昼食について

第1日、第2日ともお弁当をご利用ください。

※HPから申し込みが可能です。必ず5月7日(月)までに事前の申込みをお願いします。

当日の申込みは受付できません。

1日目 1000円(お茶付)

2日目 1000円(お茶付)

■各分科会の会場、各分科会打ち合わせの会場、2018年度第1回研究委員会会場
第1回理事会会場は、当日受付にてご案内いたします。

第 1 日

2018年5月19日(土)

■受付開始…10:00

◆会場…ホテルロイトン札幌

◆定期総会

10:30 ~ 12:00

◆特別講演・シンポジウム

13:30 ~ 17:00

◆情報交換会

17:30 ~ 19:30

2018年度定期総会

10:30—12:00

次 第

1. 開会のことば
2. 会長挨拶
3. 実行委員会委員長挨拶
4. 議長団選出(定時社員総会)
5. 議 事
 1. 2017年度活動報告

会務

特別委員会、研究委員会・同部会

各地区協議会
 2. 2017年度決算報告
 3. 会計監査報告
 4. 2018年度活動方針(案)
 5. 2018年度予算(案)
6. 新加入大学の紹介
7. 2018年度教職課程運営に関する研究交流集会 会場大学 代表挨拶
8. 2019年度定期総会・第39回研究大会 会場大学 代表挨拶
9. 閉会のことば

昼 休 み 12:20 ~ 13:30

新たなステージに向かう教職課程の課題

13:30-14:10 I:特別講演:新教職課程に期待すること

講師:高橋 道和 氏(文部科学省初等中等教育局長)

14:10-14:30

休 憩

14:30-17:00 II:シンポジウム:新教職課程への準備と期待

報告1:高 口 努 氏(独立行政法人教職員支援機構理事)

報告2:佐 藤 光 次 郎 氏(文部科学省初等中等教育局教職員課長)

報告3:牛 渡 淳 氏(仙台白百合女子大学 教授・前同大学学長)

報告4:(折衝中)

司 会 森 山 賢 一(玉川大学大学院教育学研究科 教授、教師教育リサーチセンター長)
(折衝中)

2015年12月中教審答申によって、それまで長く続いていた教員養成をめぐる課題に結論を得た。その後の教育職員免許法の改正、2017年11月同施行規則の改正を経て、2019年4月の新教職課程開始を目指した再課程認定の時期となっている。ここから生まれてくる新たな教員制度は教員育成制度として特徴づけられ、その具体化である教職課程カリキュラムの改訂、「教職課程コアカリキュラム」の提起、教員育成指標と教員育成協議会等について、これまで教員養成の一翼を担ってきた私立大学教職課程には果たすべき大きな役割がある。こうした私立大学教職課程への期待をも受け止めながら、我々は新たなステージに向かいたいものである。

再課程認定申請を終え、2019年度からの新教職課程のスタートを前に、今年度中に行うべきこと、今後の中期的な課題等、多面的な議論が特別講演、シンポジウム、分科会を通じてなされることを期待したい。

第 2 日

2018年5月20日（日）

研究大会分科会

■受付開始…9:00

◆受付場所…酪農学園大学 C1号館

※各分科会会場は、当日受付にてお知らせいたします。

◆午前の部 9:30 ~ 12:30

◆午後の部 13:30 ~ 16:30

第1分科会

〔企画：東海・北陸地区協議会〕

実践に生きる授業づくり

—教材・教具活用を組み込んだ教科・教職専門科目の実践—

○趣旨： 改正教員免許法施行規則では、従来「教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）」の中で含めなければならない事項が、「各教科の指導」「保育内容の指導法」にも追加された。授業の一部として機器・教材活用を含むというだけでは、底力のある教師の養成に繋がるかどうか。教材・教具の活用法を、教科・教職専門科目の授業の中で、原理の学びに有機的に結び付けて、同時に学習できる工夫を加えていくことが必要となる。教職を担当する教員が意図的に自らの授業の中で有効な工夫を示していくことが効果的であると考えられる。どのような工夫が可能であるか、学生のアクティブな学びを引き出す教材・教具の工夫を加えた実践事例を出し合うことを通して、教職担当教員個々が、受講生に向けた幅広い学びを作るための新しいアイデアをつくり出す機会としたい。

○司会者：杉江修治（中京大学）／宮川充司（椋山女学園大学）

○記録者：嶋口裕基（名城大学）

○発表者：①ファシリテーション技術を取り入れた英語科指導法の実践

—ホワイトボード・ミーティング®を活用して—……………大場浩正（上越教育大学）

②協同学習の指導力を育成するマンガケースメソッド学習プログラム

……………大黒孝文（同志社女子大学）

③小・中学校示範授業ビデオの制作と活用……………坂本徳弥（椋山女学園大学）

第2分科会

〔企画：京都地区協議会〕

大学教職課程における研究と教育のはざま

—その本質と実務—

○趣旨： 平成27年12月の中教審答申を受け、大学の教員養成は新たなステージに入った。このような中、本協議会は教員養成のキーワードを「本質と実務」と解釈した。「コアカリ」や「教員育成指標」は、確かに今日的学校教育現場において教員に求められる要素を多分に含んでいる。

しかしながら、これら実務的な点にばかり目をとられると教育の本質、つまり「不易」の部分を見失うのではないか。そもそも「教育とは何か」「〇〇科とは本質的に如何なる教科なのか」「人を育てるとはどういうことか」「人が生きることは如何なることなのか」等の哲学的命題無しに教員養成は語れないのではないか。そのような問題意識の下、今年度より2年間の研究は実務や教育委員会との連携に加え、教育の原理的・本質的な「不易」の部分も視野に入れることとした。大学教職課程を「教職専門学校」化しないためにも、研究と教育のバランス、不易と流行のバランス、本質と実務のバランスは常に意識しなければならないと考える。

○司会者：奥山研司（花園大学）

○記録者：小林 隆（佛教大学）

○発表者：①教育/人間形成とパトスの知—「人々の哀しみに感応」する「身もだえ」から教育を再考し、変革の力をえるために……………小野文生（同志社大学）

②「生きることのかなしみ」への目覚め—教育の本質についての教育人間学的—提言

……………鳶野克己（立命館大学）

③現代日本における道徳教育の根本問題—仏教教育の必要性……………川村覚昭（元佛教大学）

④教師の専門性と教育的タクト—reflection（省察）再考……………村井尚子（京都女子大学）

教師教育実践交流Ⅺ

—教育職員免許法の改正をふまえた新たな教職課程の展開—

○趣旨： この度、教育職員免許法が改正され、教職課程の授業の改善や、教職課程全体についてのデザインのさらなる検討が、各大学に求められるようになったと考えてよい。改正によって新たに加わった点を検討することに加えて、これまで各教員や各大学が積み上げてきた実践例を紹介して考察することも重要と考える。この度の発表では、教職課程の授業等において積極的にアクティブ・ラーニングを取り入れている事例や、教員志望度を高める工夫の実践例について紹介する。その上で、教育実習と学校インターンシップに関する新たな試みを、阪神教協の各加盟大学に実施したアンケート調査の結果報告から紹介する。

○司会者：富江英俊（関西学院大学）／立田慶裕（神戸学院大学）

○記録者：若槻 健（関西大学）

○発表者：①教育実習・学校インターンシップ等に関するアンケート調査の結果分析

—阪神教協加盟校における現状—…………… 八木成和（四天王寺大学）

②教職志望学生の学校安全に関する学びの獲得に向けて

—被災地における教師の職業的役割の研究から—…………… 松井典夫（奈良学園大学）

③小規模大学での養護教諭養成の事例…………… 池上 徹（関西福祉科学大学）

④近畿大学の教員養成支援「教職ナビ」の活動について…………… 杉浦健（近畿大学）

教員養成課程に求められる「特別の支援を必要とする

幼児、児童及び生徒に対する理解」に関する科目の意義と課題

○趣旨： 2016年改正の教育職員免許法は、「教育の基礎的理解に関する科目」群に「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解」という科目を新たに設定することになっている。それに伴い、今回の教職課程の再課程認定において、各大学等は当該科目について新設して申請を行ったはずである。また、この科目に関してはコアカリキュラムが作成され、その到達目標等があらかじめ設定されている。しかしながら、教員養成課程において当該科目がどのような意味を持つのか、さらには設定された内容が有効性を持つものなのか、実際の教員養成課程において科目の目的が担保されるのかなど、まだまだその意義や課題が十分に議論されていないと考えられる。この分科会では、こうした点を踏まえながら教員養成課程における「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解」に関わる科目に関する議論を深化させることを念頭にこのテーマを設定した。

○司会者：元井一郎（四国学院大学）

○記録者：藤本 駿（四国学院大学）

○発表者：① 教員養成制度における「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解」に関する科目設置の意味（仮題）…………… 田口康明（鹿児島県立大学）

②「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解」とは何か（仮題）

…………… 会沢 勲（四国学院大学）

第5分科会

〔企画：九州地区協議会〕

望ましい教育環境の構築をめざして

—教職協働の視点から—

○趣旨： 教育現場においてチーム学校や教職協働に関する議論が喧しい。これまでの固定化した学校文化を根本から問い直し、これからの社会を生き抜くために必要とされる資質や能力を育むことができる新しい学校文化の構築に向け、地域も巻き込んだ、さまざまな取組が展開している。その中核をなすのが学校運営に直接関わる教育職員（教員）と事務職員（職員）の連携である。それぞれの専門性を尊重しつつも、学習者（児童・生徒・学生）の成長を共に願い、その実現に向け、一致協力し、同僚性を発揮して、学校運営に積極的に関与することが期待されている。しかしながら、チーム学校や教職協働の実現には解決すべき課題も少なからずある。本分科会では、このような問題意識に立ち、望ましい教育環境の構築をめざした取組として、教職協働の視点から具体事例に基づきながら、教員と職員の在り方と今後の課題を検討する。

○司会者：未定

○記録者：未定

○発表者：① 教職協働の取り組み —スクールトライアル事業を事例に—

…………… 櫻田裕美子（宮崎産業経営大学）・齋藤一城（南九州短期大学）

② システムとしての教職協働 —大学改革と教育改革との観点から—

…………… 藤本元啓（崇城大学）

第6分科会

〔企画：研究委員会教職課程運営部会〕

新たなステージに向かう教職課程の課題Ⅰ

○趣旨： 2015年12月中教審答申によって、それまで長く続いていた教員養成をめぐる課題に結論を得た。その後の教育職員免許法の改正、2017年11月同施行規則の公布を経て、2019年4月の新教職課程開始を目指した再課程認定の時期となっている。ここから生まれてくる新たな教員制度は教員育成制度として特徴づけられ、その具体化である教職課程カリキュラムの改訂、「教職課程コアカリキュラム」の提起、教員育成指標と教員育成協議会等について、これまで教員養成の一翼を担ってきた私立大学教職課程には果たすべき大きな役割がある。こうした私立大学教職課程への期待をも受け止めながら、我々は新たなステージに向かいたいものである（本大会趣旨から）。再課程認定申請を終え、2019年度からの新教職課程のスタートを前に、今年度中に行うべきこと、特に再課程認定書類の提出を終えた時点での大学の課題について考えることにしたい。

○司会者：田中 泉（広島経済大学） / 松山隆志（九州女子大学）

○記録者：

○発表者：① 加盟校における教職課程カリキュラム改革の動向と課題…町田健一（前北陸学院大学学長）

② 再課程認定の状況と今後の課題…尾白泰次氏（文部科学省初等中等教育局教職員課専門官）

第7分科会

〔企画：北海道地区協議会〕

「チーム学校」に対応した教員養成の課題と展望

○趣旨： 複雑化多様化する今日の子どもに関わる教育課題に応えるために、「チーム」という多職種連携を強化した学校教育へのシフトに対応した教員養成はどのようになされていくべきなのか。本分科会は昨年度「チーム学校」の政策やスクールカウンセラー事業の検討を行った。昨年度に引き続き今年度も「チーム学校」に焦点を当てて研究を行っていく。今年度は、以下の3つの発表で構成する。①校外の専門職との協働によって営まれる学校教育に関する理論的検討、②2008年度導入された文部科学省「スクールソーシャルワーカー活用事業」の到達点と課題についての検討、③スクールソーシャルワーカーを導入できないへき地・小規模自治体において、保健師との連携によって問題を抱える児童生徒の支援を展開している学校の事例検討。教育と福祉の連携に注目しながら「チーム学校」のあり方をめぐる検討すべき論点を参加者とともに確認していきたい。

○司会者：西村貴之（北翔大学）

○記録者：大矢一人（藤女子大学）

○発表者：①「福祉と教育—チーム学校構想の位置どりをめぐって—」…………… 田原宏人（札幌大学）

②「チーム学校におけるSSWの役割—地域密着型、広域派遣型SSWから見える現状と課題」

…………… 田村千波（北海道教育委員会・江別市教育委員会スクールソーシャルワーカー）

③「母子保健と児童福祉・教育との切れ目のない連携」…… 湧別町役場保健福祉課（発表者未定）

第8分科会

〔企画：東北地区協議会〕

大学における教員養成と学校現場が求める教師像

○趣旨： 教員に求められている資質や能力は、グローバル化や情報化、少子高齢化等の社会の変化に伴い、学校教育に携わるための基礎的・基本的知識・技能の習得に加え、思考力・判断力・表現力等の育成や学習意欲の向上、多様な人間関係を結んでいく力の養成が一段と重視されている。

これらのことを踏まえると、学校現場での実習や児童生徒との関わる経験が一層重視される。本分科会では、教育現場に求められている教員の資質、実践研修、実習や体験活動に関わる取組みについて検討、検証することにより、教職を目指す学生の資質向上の手立てについて検討するねらいとする。

○司会者：大迫章史（仙台白百合女子大学）

○記録者：八幡 恵（東北学院大学）

○発表者：

① 教育実習の実態と諸外国との比較について …………… 金井里弥（仙台大学）

② 未定

第9分科会

〔企画：関東地区協議会〕

教育実習および介護等体験におけるハラスメント対応についての調査

○趣旨： 関東地区協議会の本部会では教育実習におけるハラスメントの研究に取り組んできたことから、2016年に「教育実習および介護等体験におけるハラスメント対応についての調査」を行った。介護等体験におけるハラスメントについては、教育実習におけるハラスメント研究の過程で、研究課題として取り上げる必要があるとの指摘がなされていた。介護等体験終了学生の相談を受けた教職員からは、「介護等体験先でのハラスメントに対しては、教育実習でのハラスメントへの対応とは異なる対応が求められる」という意見も寄せられた。そこで、本部会では介護等体験におけるハラスメントの問題を取り上げることとし、パイロット調査（2014年度）をして、「学生の目から見た介護等体験におけるハラスメントの実態」調査を実施（2015年度）した。2016年度には、これらのハラスメントに対する大学の対応事例を調査した。本分科会では、2016年度調査報告書をもとに、①で調査の経緯、趣旨、数量的概要、②で対応の準備と実際の対応の概要、③で介護等体験の実際の対応を報告する。

○司会者：田中孝一(川村学園女子大学)／内海崎貴子(川村学園女子大学)

○記録者：田中孝一(川村学園女子大学)

○発表者：①教育実習および介護等体験におけるハラスメント対応についての調査の概要

…………… 田中 裕(川村学園女子大学)

②調査結果：対応の準備と実際の対応の概要…………… 岡明秀忠(明治学院大学)

③調査結果：介護等体験の実際の対応…………… 三尾真琴(帝京科学大学)

第10分科会

〔企画：教員養成制度・教職課程カリキュラム合同部会〕

新たなステージに向かう教職課程の課題 II

○趣旨： 2015年12月中教審答申によって、それまで長く続いていた教員養成をめぐる課題に結論を得た。その後の教育職員免許法の改正、2017年11月同施行規則の公布を経て、2019年4月の新教職課程開始を目指した再課程認定の時期となっている。ここから生まれてくる新たな教員制度は教員育成制度として特徴づけられ、その具体化である教職課程カリキュラムの改訂、「教職課程コアカリキュラム」の提起、教員育成指標と教員育成協議会等について、これまで教員養成の一翼を担ってきた私立大学教職課程には果たすべき大きな役割がある。こうした私立大学教職課程への期待をも受け止めながら、我々は新たなステージに向かいたいものである(本大会趣旨から)。再課程認定申請を終え、2019年度からの新教職課程のスタートを前に、中期的な課題、特に再課程認定書類の提出を終えた時点での課題について、2部会合同で考えることにしたい。

○司会者：安井一郎(獨協大学)／原 清治(佛教大学)

○記録者：藤本敦夫(大阪音楽大学)

○発表者：①全国的な教員育成指標の共通性と異質性—養成段階を踏まえて—

…………… 八尾坂修(開智国際大学、九州大学名誉教授)

②教育実習・学校体験活動の効果の比較 - 2016年度全国調査(教職課程カリキュラム部会)から
…………… 佐藤手織(八戸工業大学)

③教職課程コアカリキュラム・教職課程質保証評価のあり方…………… 田子 健(東京薬科大学)

分科会でご発表の方に

- ・発表用資料を会場に事前に送付する場合、5月14日（月） - 17日（木）の間に着くように送ってください。宅急便到着には、例えば東京からでは中1日必要です。ご注意ください。

送付先 〒069-8601 北海道江別市文京台 582 番地

酪農学園大学教職課程室

電話 011（386）1383（月～金：9時から17時）

kyoushok@rakuno.ac.jp

- ・送付伝票品名欄に「第〇分科会発表資料」と必ず記してください。
- ・印刷準備部数は5月7日（月）申込締切後に本協会 HP に5月10日前後に掲載する「分科会参加申込者一覧」によってください。発表者への連絡は地区事務局からもお願いしています。参加申込者数に20部程度の余分を加えてください。
- ・分科会でのパソコン使用は全会場とも可能です。パソコンを持参してください。
- ・データの事前保管等はできません、各自で管理をお願いします。

定期総会（定時社員総会）議案書の事前送付について

2018年度定期総会（定時社員総会）から「議案書」の事前送付を行います。5月10日頃の発送を予定しております。

2018年度定期総会・第38回研究大会プログラム

2018年4月3日発行

一般社団法人全国私立大学教職課程協会事務局

〒192-0392 東京都八王子市堀之内 1432-1

東京薬科大学生命科学部内